君津商工会議所
# FAX通信
会員の皆様へ･･･会頭からのメッセージ
平成２７年７月２５日（土）
Vol..３０８

## 今だから言える
## 東京湾横断道路の裏話

秋元　秀夫

先日２０周年記念の石井県連会長のご挨拶に「あの難しい東京湾横断道は（今生きてる人では）秋元さんと私が作ったようなものです」と少し誇張された祝辞を頂きました。このような挨拶は、すでにアクアライン関係の行事の中では何回か言って下さっておりますが･･･

なにしろすでに５０年前の話ですから、私の資料は土蔵の奥深く内蔵され、検索しても裏話ですから全く出て来ませんので、裏話らしく極めて曖昧に書いてみました。

東京湾横断堤の構想はすでに戦後の昭和25年に松永安左衛門に提案され、それから20年後の昭和45年頃から中期経済政策の中で、民間活用によって検討が始まったが、その後の48年のオイルショックで頓挫しましたが、浜田幸一氏等議員が圧力をかけて53年は事業化を図ると位置づけられました。

裏話とは･･･沼田知事を中心とした千葉県側は大賛成でありましたが、長洲革新知事を抱える神奈川県側は全く反対でありました。長洲知事の方針は、教育、福祉が政治の中心で、経済、産業、インフラについては全く無関心状態でしたから、新産業として生まれた電子産業等はほとんど山梨へ移転、広大な三菱ドックも閉鎖、インフラは東西隣接地への車の移動は一端県南まで下って、再北上しないと到達できないと言う大渋滞と混乱振りであったので、横断道が千葉へかかれば貿易量日本一等の神奈川県の存在価値、利益・資産価値等はすべて千葉県側へと流出してしまうだろうとの神奈川県側には危惧が大でありました。

政治的交渉ではこの合意は極めて困難だと判断されて、千葉県経済同友会と神奈川県経済同友会との経済界に交渉が委ねられたのであります。ちょうど私は転業間もない、悪戦苦闘の中の田舎の一商人でありましたが、当時千葉県のキングメーカーと恐れられた千葉日報土屋秀雄社長に目を掛けられ、土屋氏の推薦・保証でまだ県下で30名位しかいなかった県経済同友会の会員となっていました。

当時会員は君津では、嶺製鐵所長さんと私２人だけ。木更津市は中央産業の山口さん位でしたので、神奈川県との交渉は土屋秀雄代表幹事に地元代表に山口さんと私と事務局長は千葉銀行石井俊昭氏となり、横浜山下公園シルクホテルでの会議が何年か続き、相手は日本を代表する企業の方ばかりでしたが、土屋代表の説得力は驚異的なもので、神奈川経済同友会代表達を納得させ、経済界での合意ができ、東京湾横断道は出発点に立つことが出来たのです。

一方、民間交流も木更津に促進同盟ができ、いち早く川崎市との交流が始まり、フェリーに乗って展示会などが進められました。川崎市の実力者寺尾巌氏は私と同年のせいもあってか、公私とも絶大な協力をして下さりました。後に小泉親子を育てた横須賀の巨頭小沢一彦氏とも出会い、今だ親交が続いており、今後も頼れる有力な人脈であります。

東京湾横断道はこの様な神奈川県との合意が出来なければ、成立しなかったのですから改めてすでに故人となった、故千葉日報土屋秀雄氏、故中央産業山口慶次氏に敬意と感謝を表し、東京湾横断道の陽の当たらない裏側での根回しの苦労、功績を披露して故人の労をねぎらいと思って、この記事を書かせて頂きました。